

新型コロナウイルス感染症対策下におけるオンライン授業の成果と課題：九州大学経済学部「日本経済史」における学生の受講実態とメッセージ

鷲崎，俊太郎
九州大学大学院経済学研究院：准教授

<https://doi.org/10.15017/4377820>

出版情報：経済學研究. 87 (5/6), pp.69-93, 2021-03-30. 九州大学経済学会
バージョン：
権利関係：

新型コロナウイルス感染症対策下における オンライン授業の成果と課題

—九州大学経済学部「日本経済史」における学生の受講実態とメッセージ—

鷲 崎 俊 太 郎

1. はじめに

本稿は、2020（令和2）年度の新型コロナウイルス感染症対策下において、九州大学経済学部「日本経済史」の受講学生を事例とした大学のオンライン授業に対する成果と課題を表したルポルタージュである。高年次の専門教育科目という微視的な対象範囲ではあるが、この非常年に、学生が講義にどのような姿勢で臨んでいたのかという受講実態と、それに伴う彼ら彼女たちのメッセージをこれからの時代へ残すことを、主な目的としている。

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための改正新型インフルエンザ対策特別措置法は、2020年3月13日に成立し、翌日施行された。4月7日、この特措法に基づく緊急事態宣言が福岡県ほか6都府県で発令され、9日後の16日には、その対象区域が全国へと拡大した。当初、緊急事態宣言の期限は5月6日とされていたが、早くも4月30日には1か月程度延長される意向が表明された。そして5月14日に福岡県を含む39県で、25日に全国で、宣言は解除された¹⁾。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、日本の多くの大学では、新年度を迎えてもキャンパス内への入校が禁じられ、授業開始は延期された。そして大半の教員は、オンライン授業化の準備・対応に追われた。九州大学においては、5月7日から春学期・前期の授業がオンライン形式で開始された。

こうしたオンライン授業に対する学生の満足度や意識の調査結果は、春学期や前期の終了後から各大学で公開され始めた。たとえば、立教大学経営学部は、新入生と新2年生を対象とした学生意識調査の結果を公表した²⁾。また、九州大学でも、教育改革推進本部による春学期の学生アンケート結果が出された³⁾。ただし、両校とも調査対象が低年次中心だったので⁴⁾、高年次生の意見が反映されにく

*執筆にあたって、篠崎彰彦教授（経済学研究院）からは励ましのお言葉、オンライン化特設チーム長の八木信一教授（経済学研究院）からは情報のご提供と本稿記載事実のご確認を賜った。また、九州大学の「授業の在り方に関する検討ワーキンググループ」には、本講義を学内でのオンライン授業の好事例（グッドプラクティス）に選んで頂き、長沼祥太郎講師（教育改革推進本部）のご助力で、学内に周知して頂いた。さらに、木實新一教授（基幹教育院）には、Moodleに関する文献を紹介頂くとともに、ラーニングアナリティクスセンターからのインタビューを行う機会を賜った。本講義への感想を寄せてくれた受講学生を含め、この場を借りて御礼申し上げたい。

1) 『読売新聞』東京朝刊、2020年3月14日、4月8日、17日、5月1日、15日、26日、各1面。

2) 立教大学 Web サイト「ニュース」2020年9月3日（<https://www.rikkyo.ac.jp/news/2020/09/mknpps000001bg3b.html>）。

3) 九州大学広報室プレスリリース「九州大学のオンライン授業に関する学生アンケート（春学期）結果について」2020年8月11日（https://www.kyushu-u.ac.jp/f/40309/20_08_11_01.pdf）。

い点、さらに新生は大学での対面式授業を一度も受講した経験を持たなかったため、オンライン授業との比較をしづらかった欠点が挙げられる。またオンライン授業全般の実態を把握するアンケートだったことから、その結果を、科目特性の差が大きい高年次の専門教育にフィードバックしづらい⁵⁾。

わが経済学研究院においても、後述の「オンライン化特設チーム」が「経済学部・学府のオンライン授業に関する学生アンケート調査」を6月19～29日に実施し、その集計結果を公開している。ただし、ここでも学部1年生の回答率が高かったため、高年次学部生の意向が必ずしも反映された集計結果だとはいえない⁶⁾。そういう意味で、特定の高年次専門科目という微視的な調査対象ではあるが、その受講学生たちが2020年度前期のオンライン授業に何を思い、何を訴えたかったのか、その記録を残しておくことは、オンライン化特設チームの学生アンケートを補完する役割を担うこともできよう。

とくに九州大学経済学部は、2024（令和6）年に九州帝国大学法文学部経済科の発足から100周年を迎えるが、その間に平常の大学教育を実施できない時期が何度か発生した⁷⁾。たとえば、太平洋戦争開戦後の1942（昭和17）年度から、経済科の修業年限が3か年から2か月半に短縮され、翌1943（昭和18）年には卒業見込とみなされる単位数が23単位から13単位へと減少した。終戦後、1949（昭和24）年の新制大学発足によって独立した九州大学経済学部では、1959（昭和34）年の安保闘争に応じた学生の授業放棄や、1968（昭和43）年の米軍機墜落事故とその翌年まで続く大学紛争に伴う箱崎キャンパスの封鎖といった出来事が勃発した⁸⁾。とはいうものの、ウイルス感染を回避するために学生がキャンパス内で受講できない事態は、学部史上まさしく前代未聞だった。対面式授業ができないという極めてイレギュラーとなった今年度、とりわけ前期の大学教育を、学生および教員がどうやって乗り切ろうとしたのか、その証を1科目の事例とはいえ、微細的な視座で刻んでおくことは、経済学部・学府・研究院史にとっても無益ではなからう。

2. 九大本部および経済学研究院での取り組み

改正新型インフルエンザ対策特別措置法が成立した3月中旬には、新年度の大学教育に対する悲観的な声は、まだ少なかった。どちらかといえば、コロナ禍に対応した大学の年中行事への世間的関心は、卒業式・入学式の中止・縮小開催に向けられていた。九州大学の卒業式は3月23日に開催されたものの、学部卒業生・学府修了生あわせて約4,800人の中から実際に出席できたのは、各学部・学府総代14人のみだった⁹⁾。ところが、3月下旬から新型コロナウイルスの感染者数が急増すると、新年度

4) 九大の調査対象者は、学部新生1,835名（調査対象総数の49%）に対して、上級生（2～4年生）1,934名（同51%）であった。

5) 全学部生を対象とする授業改善アンケートの実施をWeb上で公開したのは、立正大学である。立正大学Webサイト「オンライン授業に一定の教育効果」2020年9月23日プレスリリース（https://www.ris.ac.jp/pressrelease/2020/press_001.html）。

6) 「経済学部・学府のオンライン授業に関する学生アンケート調査 集計結果」（https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/07/online_20200728_questionnaire.pdf）。

7) 1924（大正13）年9月、九州帝国大学法文学部が発足し、1925年4月の学部開設時に、法科・文科と並んで経済科が設置された。九州大学百年史編集委員会 [2014]、3頁。

8) 九州大学百年史編集委員会 [2014]、8-10、14-17頁。

の授業でインターネットを活用する動きが、急速に拡大した¹⁰⁾。そして24日には、文部科学省が大学等における感染拡大の防止策として、「多様なメディアを高度に利用して行う授業（以下「遠隔授業」という。）の活用などによる学修機会の確保に留意すること」と通知し、オンライン授業を推奨し始めた¹¹⁾。

九州大学では、4月3日付で「令和2年度の授業日程及び遠隔授業の活用等について」というお知らせが公開され、春学期については、その期間が5月7日（木）～6月24日（水）に変更されたうえで、原則として「遠隔授業による科目のみの開講とし、対面授業によるものは開講しない¹²⁾」ことが告知された。こうしたオンライン授業化の前提として、九州大学は2013年度から学生PC必携化を学年進行で推進し、2018年度には全ての学部生が、自分のPCを使って、いつでも、どこでも、自分のペースで学習できる体制を整備していた点が挙げられる。また学生支援として、必須ソフトウェアが無償で提供されてきた。これにより、九大の教員は、LMS（Learning Management System：授業支援システム）としてのM2Bシステム（e-Learning SystemのMoodle¹³⁾、e-Portfolio SystemのMahara、Digital Text Distribution SystemのBookQという3つのWeb学習システムの総称）を、学生の学習環境に拘わらず、活用できるようになっていた¹⁴⁾。

このような大学本部の動きに対して、経済学研究院では、本部の告知以前から既に、岩田健治研究院長が部局執行部との議論を踏まえて、オンライン授業化に動き出していた。3月27日には、研究院長から部局構成員に対して「経済学部・学府教育オンライン化特設チーム」（以下、オンライン化特設チーム）を設置する旨のメールが配信された。そして、当初4月15日から開始される予定だった春学期・前期の授業に対して、教職員・学生間の感染拡大を防止し、通常通り実施できるように、そのオンライン化の実現、さらに、そのための部局内のインフラ整備と教職員のトレーニングが謳われた。4日後の4月1日、オンライン化特設チームが八木信一教授をチーム長として立ち上がり、チーム主導の授業オンライン化に向けた本格的な準備が進められた。

オンライン化特設チームは4月3日、オンライン授業・会議で用いる手法を部局内の各教員へ通知し、そのためのPC推奨スペック、オンライン講習に関する各種マニュアルの確認、Moodle利用の推奨、授業情報の提供先となるオンライン・ストレージや動画共有サービスの紹介といった情報を、教員相互で共有することに尽力した。そのうえで、経済学部・学府生に対しては、4月7日～14日に、

9) 『朝日新聞』夕刊、西部版、2020年3月23日、9頁。

10) 『読売新聞』大阪夕刊、2020年3月21日、9頁。

11) 文部科学省「令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知）」2020年3月24日、2-3頁（https://www.mext.go.jp/content/20200324-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf）。

12) 九州大学 Web サイト「令和2年度の授業日程及び遠隔授業の活用等について」（<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/notices/view/1585>）。

13) Moodle (Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment) とは、オンライン学習のためのオープンソースによるコース管理システムで、無料での利用を特長とする。その目的は、学習者がそれぞれの環境に身を置きながら、学習者間の共同作業を可能にする環境の作成にある。そのために、Moodleは、たとえば教材・資料・課題の掲示・配布機能、小テストやアンケートなどの作成・回答・集計機能、教員-学習者間ないしは学習者相互間でのディスカッション・伝達機能、学習状況をモニタリングできるトラッキングなどを提供している。Brandl, K. [2005], p.16; 品川恭子 [2008], 135-138頁。

14) 藤村直美・緒方広明 [2017]、1-2頁；藤村直美・多川孝央・眞崎義憲・木實新一 [2020]、23-24頁。

「九州大学経済学部生・学府生等ネット環境アンケート調査」(日本語版:回答数394)を行い、オンライン授業の受講環境を把握した。続く4月13日～20日には、同じ調査の英語版(回答数13)を実施し、外国人留学生に対する配慮も行った。そして、これらの結果から、経済学部・学府生がZoomであればオンライン授業をほぼ支障なく受講できることを確認した¹⁵⁾。以上を踏まえ、4月27日、経済学部・学府 Web サイトに「オンライン授業特設ページ¹⁶⁾」を開設し、経済学部・学府提供のオンライン授業に関連する情報を掲載し、その円滑な実施に向けて学生へ協力を呼びかけた。

他方、オンライン化特設チームは4月15日、経済学研究院の教職員向けに、「経済学研究院におけるオンライン授業・会議の手法に関するガイドライン」(以下、ガイドライン)を通知した。このガイドラインでは、「オンライン授業のうち、リアルタイムで行うものについては、アプリケーションソフトとしてZoomの利用を原則とする」ことが謳われるとともに¹⁷⁾、録画情報を提供するオンデマンド型授業では、1回の授業を複数回に分けること、Moodleだと容量が小さいので、学内のOne Drive、クラストリームなどの利用が推奨された。ガイドラインはその後、幾度か改訂された。4月27日の改訂では、分割した録画情報の提供時間が1回あたり20分以内と推奨され、9月23日には、録画情報の提供先として、Moodleをはじめ学内の装備では現在および将来的に容量制限が厳しいためにできるだけ避け、新たに学外のGoogle Driveや限定公開でのYouTubeの利用が推奨された¹⁸⁾。

3. 授業のコンテンツ

さて、2020年度の「日本経済史」は、経済学部の専攻教育科目として、前期木曜3限(13時～14時30分)に開講される計画となっていた。「日本経済史」は、経済学部の専攻教育科目に編成されるが¹⁹⁾、学科で選択必修科目または自由選択科目への区分が異なる。経済・経営学科の学生は、3年次に、参加する経済・経営学演習(ゼミ)を登録しなければならない。そして、主演習担当教員の所属する系(経済分析系・産業分析系・企業分析系の3種類)に応じて、学生は各系へ振り分けられる。そのうえで、経済・経営学科の学生は、選択必修科目のうち12単位以上を所属する系の授業科目から修得しなければならない²⁰⁾。「日本経済史」は、経済分析系と産業分析系の選択必修科目に、企業分析系の所属学生と経済工学科の学生に対しては、自由選択科目に区分されている。このほか、経済学部の両学科には、グローバル・ディプロマプログラム(GProE)が置かれている。GProEに参加する学生は、このプログラムの必修科目を修得し、所属学科の卒業要件を満たしたうえで、GProE専門科目12単位を修得すれば、「経済グローバル・ディプロマ」を取得でき²¹⁾、「日本経済史」はその専門科目にも区分

15) この調査結果は対外的に未公表だが、八木教授から情報と引用の許可を賜った。

16) <https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/kyoumu/online/>

17) 経済学研究院では、前期のオンライン授業の実施に向けたFD研修の一環として、教職員向けのZoom基礎講習会が、4月13日に開催された。

18) 本講義の開講された前期に、YouTubeは録画提供先としてガイドライン推奨外だった。

19) 「九州大学経済学部規則」第8条、九州大学経済学部[2020]、所収、5頁。

20) 「経済学部履修細則」4(9)、5、九州大学経済学部[2020]、所収、7頁。

される。

表1は、2020年度前期に開講した「日本経済史」における履修学生の構成人数をあらわす。この人数には、履修修正申告期間を経て、履修を削除・中止した学生、および履修申告を行わずに授業へ参加していた学生を含めない。履修学生の総数は185人であり、法学部生1人、21世紀プログラム生²²⁾2人の計3人を除くと、全て経済学部生である。学科別の人数比は、経済・経営学科160人（履修人数全体の86.5%）に対して、経済工学科22人（同11.9%）であり、前者の所属系別に見た人数は、経済分析系72人（同38.9%）、産業分析系44人（同23.8%）、企業分析系41人（同22.2%）、未所属3人（同1.6%）であった。また学年別に見てみると、3年次は116人（同62.7%）、4年次以上は69人（同37.3%）であった。こうした比率は、コロナ禍という非常年度を問わず、いずれも例年と同様である。

ところで、「日本経済史」の履修にあたっては、大学受験時にセンター試験の「地歴・公民」で何の科目を選択していたかが、興味や理解の鍵となることもある。そこで、今年度の受講学生²³⁾には、センター試験「地歴・公民」の選択科目を、第1回（5月7日）講義で尋ねた²⁴⁾。その結果は、表2のとおり、日本史選択者は世界史選択者と全く同じ86人（回答者数の47.3%）であった。経済・経営学

表1 2020年度「日本経済史」履修学生の構成

所属学部	所属学科	所属系	科目分類	3年次	4年次以上	（人）（％）	
						小計	
経済学部	経済・経営学科	経済分析系	専攻教育科目	55	17	72	38.9
		産業分析系	専攻教育科目	23	21	44	23.8
		企業分析系	自由選択科目	29	12	41	22.2
		未所属		2	1	3	1.6
	経済工学科		自由選択科目	6	16	22	11.9
法学部			自由選択科目	1	0	1	0.5
21世紀プログラム			自由選択科目	0	2	2	1.1
小計				116	69	185	100.0
(%)				62.7	37.3	100.0	

出典：履修者名簿。

注：上記人数には、履修修正申告期間に第3回目以降の履修を削除した学生（13名）、第7回目以降の履修を中止した学生（2名）、履修申告を行わずに参加していた学生（1名）を含まない。

21) グローバル・ディプロマプログラム（GProE）は、「経済学部が従来行ってきた経済学分野での専門教育を基盤としながら、グローバル・マインドと英語等のグローバルなコミュニケーション能力を備えた人材養成を行うことで、こうしたグローバル時代の要請に対応できる人材を養成する」ためのプログラムである。九州大学経済学部 [2020]、22頁。

22) 21世紀プログラムは、「従来の学問分野の枠組みをこえて幅広い視野を持ち、現代社会における問題発見、課題設定とその解決能力に優れた“専門性の高いゼネラリスト”を養成する」プログラムで、2001（平成13）年4月にその1期生が入学した。このプログラム生は、原則として全学部で開講されている授業の中から履修する授業を選択できた。2018（平成30）年4月の共創学部設置に伴い、入学は廃止された。九州大学21世紀プログラム「理念・沿革」（<http://www.21cp.kyushu-u.ac.jp/about/rinen.html>）。

23) 本稿で言及する「受講学生」とは、履修者名簿の登録学生のみならず、途中で削除・履修中止を行ったり、登録せずとも聴講し続けたりした学生を含むことを意味する。

24) 経済学部の一般選抜において、経済・経営学科は「地歴・公民」を前期日程で2科目、後期日程で1科目、経済工学科では前期・後期日程とも1科目の受験を指定している。

科の学生が2科目選択する組み合わせとして、日本史と世界史というペアも若干見られたが、大半のケースは、日本史か世界史のどちらかに「倫理、政治・経済」を組み合わせるパターンであった。また、経済工学科の学生を中心として、地理の選択者が4分の1ほど存在していた。他方で、3年次編入生・帰国子女枠・外国人留学生、あるいは21世紀プログラムのAO入試といった一般選抜以外の受験を経て入学してきた受講生も、7%程度存在した。

表2 センター試験「地歴・公民」選択科目

	(人)	(%)
日本史 B	86	47.3
世界史 B	86	47.3
地理 B	47	25.8
倫理	1	0.5
政治・経済	1	0.5
現代社会	1	0.5
倫理、政治・経済	100	54.9
3年次編入生・帰国子女枠・外国人留学生	12	6.6
その他（センター試験未受験）	1	0.5

出典：九州大学経済学部前期講義「日本経済史」ミニッツ・ペーパー第1回（5月7日～14日実施）。

注：回答者数は182人、複数回答可能。百分率の母数は、回答者数。

4. オンデマンド講義の受講方法

前述したオンライン化特設チームのガイドラインに基づいて、「日本経済史」では、以下のようなオンデマンド講義を開講する運びとなった。第1に、PowerPointのエクスポート機能を利用して、90分の講義をmp4形式の動画1本あたり20～22分（約140MB）に収まるように毎回4本作成し、開講時限の毎週木曜日3限までにアップロードした。アップロード先は、Moodle、学内のOne Drive、限定公開設定のYouTubeと3種類を用意し、いずれもストリーミングで視聴できるようにした。3種類のアップロード先を用意した理由は、MoodleやOne Driveに障害が発生したとしても、YouTubeにバックアップとしての役割を持たせていたからである²⁵⁾。

表3には、第2回（5月14日）講義の際に受講学生へ尋ねた「講義動画の視聴方法」に対する設問と回答者数が示されている。それによると、回答者167人中、Moodleで講義動画

表3 講義動画の視聴方法

	(人)	(%)
Moodleにログイン→「日本経済史」のコースから動画を視聴	93	55.7
授業用Webサイトの「履修者専用ページ」にログイン→OneDriveの動画を視聴	3	1.8
授業用Webサイトの「履修者専用ページ」にログイン→YouTubeの動画を視聴	87	52.1
途中で視聴できなくなったのでそこからYouTubeに移行した	1	0.6

出典：九州大学経済学部前期講義「日本経済史」ミニッツ・ペーパー第2回（5月14日～21日実施）。

注：回答者数は167人、複数回答可能。百分率の母数は、回答者数。

25) 2020年12月14日米東部時間6時30分頃～7時30分頃（日本時間同日20時30分頃～21時30分頃）に、米Googleのサービスが世界の幅広い地域で一時接続できなくなった。本講義も、ツールをYouTubeやGoogleフォームに依存している以上、こうしたリスクを回避しておく必要がある。『日本経済新聞』電子版、2020年12月14日21時58分配信（2020年12月15日7時29分更新）。

を視聴していた受講学生93人(55.7%)に対して、YouTubeを使って講義動画を視聴していた受講学生87人(52.1%)と、およそ半々であり、One Driveから講義動画を視聴していた学生は皆無に等しかった。Moodleでの視聴が半数存在したのは、他の科目でもMoodleによる講義が展開されたことで、おそらく学生がそれをオンライン授業のデフォルトと判断したからだろう。そこで、「日本経済史」では、第3回(5月21日)からOne Driveへの動画アップロードを廃止した。また、Moodleにアップロードするために定められた1ファイルあたりの容量制限は当初150MBを超えていたが、次第に厳しくなって、第11回(7月16日)の時期においては1ファイルあたり50MBまで低下した。そのため、今回以降はYouTubeへのアップロードのみとした。

動画講義の視聴後、受講学生にはGoogleフォームで作成した設問を、「ミニッツ・ペーパー」として講義翌週の木曜日23時59分までに回答・送信してもらった。1回あたりのミニッツ・ペーパーの回答字数は、200~250字以上の講義内容に関する感想・批評・質問を2題(4分割された講義動画の前半2ファイルと後半2ファイル向け)を中心として、小問のアンケートを設置したり、オンライン講義全体で感じたことなどを自由に呟ける記述欄を作成しておいたりした。さらに、全14回分の講義終了後には、同じくGoogleフォームを利用した期末レポートを記述してもらった。このレポート課題は、およそ通常の期末試験の論述に準じたものである。

5. 受講学生数・課題提出率・動画視聴日時の推移

(1) 受講学生数と課題の提出率

はじめに、表4(1)で各回の受講学生数を確認しよう。当初、第1回の受講学生は200人だった。第3回に履修申告の修正が実施された結果、188人と減少し、第7回(6月18日)以降はさらに履修中止の学生が2人いたため、最終の受講学生数は186人だった。そのうち1人は履修申告をせず任意に聴講していた学生だったため、期末試験の受講学生数は185人となる。これが、表1の履修学生数である。この各回における受講学生数を総計したのべ人数は、2,825人となる。このうち、3年次生ののべ人数は1,768人(62.6%)、4年次生以上ののべ人数は1,057人(37.4%)で、表1における学年別の履修学生とほぼ同率となる。

次に、各回のミニッツ・ペーパーおよび期末試験を送信した学生数に目を移してみよう。第1回には182人がミニッツ・ペーパーを送信していたが、その数は回数を追うごとに減少し、第5回(6月4日)には145人まで落ち込んだ。これは、4月に発令された緊急事態宣言が5月末までに全国的に解除された結果、国内の経済活動が再開された影響が反映されたものだと思う。とくに、4年次以上の送信学生数が、第4回(5月28日)から第5回にかけて、55人から41人へと25%ポイントも落ち込んだのは、就職活動が本格的に再開されたからだと考えられる²⁶⁾。その後、第6回(6月11日)には再び161人まで回復したのち、微増・微減を繰り返しながら、第11回に2度目のボトムを迎える。今回には、3年次の送信者数が最小となったが、提出者のコメントを読むと、他の授業で中間レポートが行われたために提出できなかったと記載されていた²⁷⁾。最終的に、第14回(8月6日)と期末試験(8

月13日)の送信学生数は160人台までに回復している。

送信学生数を、のべ人数で比較してみると、3年次生1,632人(68.4%)に対して、4年次生以上は754人(31.6%)だった。4年次以上に関しては、受講学生数ののべ人数に比べると、5.8%ポイント減少しているが、これは履修登録したものの、他の科目で卒業要件に必要な単位を満たしたため、送信しなかった可能性を有する。受講学生数に対する送信学生数の比率(送信率)は、全体的に最高91.0%(第1回目)、最低76.3%(第11回目)、平均84.5%であった。また、学年別の送信率は、3年次92.3%、4年次以上71.3%となった。

こうした受講学生の課題提出の比率を、以前の対面式講義時のそれと比較してみよう。表4(2)は、2018年度前期「日本経済史」における「出席カード」の提出者数および期末試験の受験者数を、(1)と同じように、講義の回数別かつ学年別に考察したものである。2年前に対面式で開講された同科目では、受講学生が講義内容の感想や質問を「出席カード」と称する専用の用紙に記入し、授業終了後に直接提出する形式が採られていた。表4(2)によると、その平均提出率は、期末試験での解答用紙を含めて71.7%であり、学年別に見ると、3年次生85.9%、4年次生以上38.5%であった。すなわち、今年度の送信率は、2年前の提出率よりも全体で12.8%ポイント、学年別では3年次生で6.4%ポイント、4年次生以上だと32.8%ポイント上昇したといえる。コロナ以前の対面式授業だと、4年次生以上においては各回の提出率も低調であり、50%を超えたのは期末試験時(55.6%)に過ぎない。この要因は、4月から7月にかけて民間の就職活動や公務員試験の受験勉強などと重複したことにより、それらと講義への出席との二者択一を迫られたため、そうすることによって欠席が重なって履修を登録しても、課題未提出・期末試験未受験となってしまったからと考えられる。すなわち、オンデマンド講義の実施は、高年次生、なかんずく4年生や過年度生といった卒業を控えた年次の学生には、就職活動の有無・如何に拘わらず、講義自体に参加でき、課題を着実に提出させる効果があったと主張できる。

(2) 動画講義の視聴日時

次に、「日本経済史」の受講学生がオンデマンド講義をいつ、何時ごろに聴講していたかを考察してみよう。表5は、受講学生が講義動画を毎回視聴した曜日と時間帯、および1日あたりの視聴本数をあらわしたものである。調査時期は、ちょうど講義内容が折り返した第9回(7月2日)であり、ミニッツ・ペーパーにおけるこの質問に対して受講学生が自己申告かつ複数選択可で回答した結果である。

それによると、まず表5(1)の視聴曜日においては、回答者161人の中で、当該の開講曜日である

26) 就職・採用活動日程に関する関係省庁連絡会議「2021年度卒業・修了予定者の就職・採用活動日程に関する考え方(案)」2019(令和元)年10月30日(https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/shushoku_katsudou/dai3/siryoul.pdf)によると、2020年度(2021年3月)に卒業・修了予定の学生の就職・採用活動日程のうち、採用選考活動開始は卒業・修了年度の6月1日以降を遵守とする等の旨を、関係省庁から経済団体・業界団体等に対して要請されていた。ただし、ゼミ生に就活状況を尋ねてみたところ、5月末で既に終了していたと回答した者も数名いた。

27) 「今の時期は中間レポートがたまっていく時期で大変だけど頑張ろう。他の学部の授業をとってみたら意外と大変でした」(びおっさん、第6回の感想)、「他の授業のレポートの量がすごすぎて、まだ手が回っていません」(第13回の感想)。

表4 回数別学年別に見たミニッツ・ペーパー（出席カード）と期末試験の送信（提出）受講学生数

(1) 2020年度：オンデマンド型講義

講義日	(人)														(%)	
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	期末試験	小計
提出締切日	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30	8/6	8/13	8/13
送信学生数	117	114	112	109	104	110	107	106	110	107	100	109	108	111	108	1,632
	65	53	52	55	41	51	47	46	51	49	42	49	48	50	55	754
	182	167	164	164	145	161	154	152	161	156	142	158	156	161	163	2,386
	124	124	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	116	1,768
受講学生数	76	76	71	71	71	71	69	69	69	69	69	69	69	69	69	1,057
	200	200	188	188	188	188	186	186	186	186	186	186	186	186	185	2,825
	94.4	91.9	95.7	93.2	88.9	94.0	91.5	90.6	94.0	91.5	85.5	93.2	92.3	94.9	93.1	(平均) 92.3
送信率 (%)	85.5	69.7	73.2	77.5	57.7	71.8	68.1	66.7	73.9	71.0	60.9	71.0	69.6	72.5	79.7	(平均) 71.3
	91.0	83.5	87.2	87.2	77.1	85.6	82.8	81.7	86.6	83.9	76.3	84.9	83.9	86.6	88.1	(平均) 84.5

出典：九州大学経済学部前期講義「日本経済史」ミニッツ・ペーパー各回。

注：上記人数には、履修修正申告期間に第3回目以降の履修を削除した学生（13名、うち10名は2回ともミニッツ・ペーパーを未提出）、第7回目以降の履修を中止した学生（2名、うち1名は6回ともミニッツ・ペーパーを未提出）、履修申告を行わずに参加していた学生（1名）を含み、この受講生は期末試験を受験していない。送信率 (%) = 送信学生数 / 受講学生数。

(2) 2018年度：対面式講義

講義日	(人)														(%)	
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	期末試験	小計
提出締切日	4/13	4/20	4/27	5/11	5/18	5/25	6/1	6/8	6/15	6/22	6/29	7/6	7/13	7/20	7/27	
提出学生数	114	119	112	103	106	111	113	110	113	104	109	107	88	111	122	1,642
	24	21	27	18	18	22	23	17	21	17	21	18	17	20	30	314
	138	140	139	121	124	133	136	127	134	121	130	125	105	131	152	1,956
履修学生数	130	130	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	1,911
	57	57	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	816
	187	187	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	2,727
	87.7	91.5	88.2	81.1	83.5	87.4	89.0	86.6	89.0	81.9	85.8	84.3	69.3	87.4	96.1	(平均) 85.9
提出率 (%)	42.1	36.8	50.0	33.3	33.3	40.7	42.6	31.5	38.9	31.5	38.9	33.3	31.5	37.0	55.6	(平均) 38.5
	73.8	74.9	76.8	66.9	68.5	73.5	75.1	70.2	74.0	66.9	71.8	69.1	58.0	72.4	84.0	(平均) 71.7

出典：九州大学経済学部前期講義「日本経済史」出席カード各回。

注：上記人数には、履修修正申告期間に第3回目以降の履修を削除した学生（6名、うち3名は2回とも欠席）を含む。大学院生の履修者（1名）を除く。学生出席率 (%) = 提出学生数 / 履修学生数。

木曜日に視聴するという受講学生は66人(41.0%)、以下、週末の曜日まで16~19%台を推移し、週初めの月曜日に15人(9.3%)と底に至る。しかし、火曜日から視聴する学生が漸増し、ミニッツ・ペーパーの提出期限日である翌週の木曜日には73人(45.3%)とピークを迎える。他方、(2)時間帯に関しては、1日を6時間ごとに4区分した選択肢から回答してもらったところ、本来の講義時間を含む12時~18時が90人(55.9%)であったのに対して、コロナ禍以前の時間割ではあり得なかった18時~24時に視聴していたという受講学生が94人(58.4%)存在した。このように、大方の学生は午後には聴講していたといえる。さらに、(3)1日あたりの視聴本数を尋ねてみると、講義1回分に当たる4本をまとめて視聴する学生が131人(81.4%)と圧倒的に多く、それに比べると、数日にわたって少しずつ視聴するという受講学生は少なかった。

ただし、1日に4本分視聴するといっても、「4パートに分かれていることで、予定がある日でも、前半を見て、予定が終わってから残りを見ると言ったことも可能」と、自身のスケジュールに合わせた形で受講する学生もいれば、「動画が4つに分割してあるため数日にわけてじっくり見ることができた」(タイ子さん)学生も存在していた²⁸⁾。

このような動画視聴日時に対する受講学生の申告を裏付けるために、ミニッツ・ペーパーの送信日時を観察してみよう。Googleフォームのスプレッドシートには、タイプスタンプという回答者の送信日時が秒単位で把握できる項目がある。換言すれば、受講学生が講義動画を4本視聴したうえで、ミニッツ・ペーパーを記載し、回答を送信したのであれば、聴講の日時をより厳密に理解できる。

そこで、表6を見てみたい。表6は、ミニッツ・ペーパーおよび期末試験を送信した受講学生ののべ人数を曜日別に見

表5 動画講義の視聴曜日・時間帯・本数

(1) 曜日	(人)	(%)
木曜日(当該講義日)	66	41.0
金曜日	27	16.8
土曜日	30	18.6
日曜日	32	19.9
月曜日	15	9.3
火曜日	25	15.5
水曜日	48	29.8
木曜日(講義翌週、MP提出締切日)	73	45.3

(2) 時間帯	(人)	(%)
0:00~6:00	15	9.3
6:00~12:00	21	13.0
12:00~18:00	90	55.9
18:00~24:00	94	58.4

(3) 1日あたりの視聴本数	(人)	(%)
4つまとめて	131	81.4
3つまで	6	3.7
2つまで	23	14.3
1つまで	18	11.2
アップロードされたらすぐ	1	0.6

出典：九州大学経済学部前期講義「日本経済史」ミニッツ・ペーパー第9回(7月2日~9日実施)。

注：回答者数は161人、いずれも複数回答可能。百分率の母数は、回答者数。

28) 記述回答のあとの固有名詞は、受講学生が回答する際に設定した任意のハンドルネームである。本稿では、あえてハンドルネームを記載することで、受講学生の個別化・個性化を図った。なお、受講学生がミニッツ・ペーパーに寄せた感想や批評などを、本稿に一次情報・一次データとして引用することへの可否に関しては、第11回ミニッツ・ペーパーで尋ねており、「同意する」を選択した学生の文面のみを、本稿では引用している。

た考察したものである²⁹⁾。このべ人数の合計2,386人は、表3における送信学生数（3～4年次計）の小計に一致する。表6を見ると、ミニッツ・ペーパーおよび期末試験の送信日は、まず当該講義日である木曜日に第一の山（19.0%）を迎える。表5においても、当該講義日である木曜日に視聴すると自己申告している受講学生が顕著だったことから、オンデマンド型の講義形態とはいえ、時間割どおりリアルタイムで聴講する学生が一定数いたことを物語る。受講学生の感想の中には、「バイトや就活等の予定は時間割に沿って立てているので、動画やミニッツ・ペーパー、レジュメのアップは授業開始までに間に合わせていただきたい」（太郎さん）という叱咤激励も、教員に寄せられていた。以下、送信人数は講義2日後の土曜日にボトムを迎えると、翌週にかけて再び増加し始め、6日後の水曜日（提出締切前日）と7日後の木曜日（同当日）の送信人数は合わせて51%に到達していた。この結果は、表5（1）の視聴曜日の申告回答とほぼ同様であり、受講学生はオンデマンド型の長所を享受しながら、視聴後直ちに回答していたと想定される。

次に、ミニッツ・ペーパーおよび期末試験の送信受講学生数を、講義の回数別、およびその時間帯別に見てみよう。表7は、それを表したものである。ここでの時間帯は、1日を3時間ごとに8等分している。表5（2）で受講学生に申告してもらった動画視聴時間帯と同様に、これらの送信時間帯についても、総数の79%は「午後」に集中している。その内訳を見ると、30%が21時00分～23時59分に、20%が15時00分～17時59分に送信していた。学生にとって18時から21時までが夕食やアルバイトの時間帯だと想定すれば、それらの前後に受講し、回答していたと想定される。とくに21時00分～23時59分の送信者数は、回数が進むにつれて増加した。その人数は、緊急事態宣言中の第1回こそ27人に限られていたが、宣言解除後の第6回には52人に、第12回（7月23日）には66人にまで到達していた³⁰⁾。期末試験においては、この時間帯の受験者が65人にのぼっている。他方、同じ「午後」でも、本来の講義時限が含まれる時間帯（12時00分～14時59分）の送信者は、第1回こそ64人を誇っていたが、翌週の第2回には27人と激減し、第10回（7月9日）と第14回には18人まで減少した。期末試験においては、この時間帯の受験者数が16人に過ぎなかった。前述した太郎さんのように、日常のスケジュールを時間割どおりに組んでいた受講学生も少なくはなかったが、受講学生の大半は、オンデマンド型の恩恵を与えるのならば、リアルタイムでの受講に縛られたくない意図が感じられる。また20%を占めた「午前」の送信者も、その半数近くは0時00分～2時59分に送信していた。この中には、締切日時であった木曜日23時59分を若干過ぎてしまった者も多く含まれるが、いずれにしても、就寝前に講義動画を視聴し、記述を回答したことが推察される。もしかしたら、提出締切時刻を日中にしておけば、課題送信の時間帯は変わっていたかもしれないが、教員側がオンデマンド型の講義を提供すれば、学生は「夜学」する傾向にあった。

29) 付表1「回数別日時別に見たミニッツ・ペーパーと期末試験の送信受講学生数」も参照。

30) 夕食後に自宅で講義を視聴することは、意外な効果も見られた。受講学生の感想を引用すると、「家族の共用スペースで動画を視聴したため母親も興味を持ち次回の講義を楽しみにしています」（ジョン・ドゥさん）、「私は実家に住んでいてイヤホンなどをせずに動画講義を視聴しているのですが、母もこの講義を密かに聞いているらしく、最近日本経済史の話ばかりしてきます」（yさん）など、自宅にいながら親子で大学の授業を聴講するという副産物も発生させていた。この事実は、他方で、保護者が学生の聴講状況をチェックし、教員側も下手な授業を提供できない点を物語っている。

表6 曜日別に見たミニッツ・ペーパー (MP) と期末試験の送信受講学生のべ数

	(人)	(%)
当該講義日以前	63	2.6
当該講義日	454	19.0
1日後	157	6.6
2日後	97	4.1
3日後	103	4.3
4日後	126	5.3
5日後	137	5.7
6日後	288	12.1
7日後	928	38.9
8日後以降	33	1.4
合計	2,386	100.0

出典：付表1と同じ。同表最右列の「日別計」を参照。

注：付表1と同じ。

表7 回数別時間帯別に見たミニッツ・ペーパーと期末試験の送信受講学生数

															期末試験			時間帯別計			(人、%)	
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	8/6	8/13	8/13	9.3	2.4	2.4		
	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30	8/6	8/13	8/6	8/13	8/13	221	58		57
講義日・出題日	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30	8/6	8/13	8/6	8/13	8/13	279	24	24	11.7
提出締切日	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30	8/6	8/13	8/6	8/13	8/13	226	7.1	7.1	9.5	
00:00~02:59 ①	9	13	16	18	17	15	18	9	23	14	11	15	12	16	15	15	16	15	415	17.4	17.4	37.3
03:00~05:59 ②	4	4	6	4	3	1	2	7	6	4	1	2	5	5	4	4	5	4	475	19.9	19.9	
06:00~08:59 ③	3	5	3	5	3	5	3	3	3	2	2	2	3	8	7	7	8	7	169	7.1	7.1	9.5
09:00~11:59 ④	17	20	18	10	18	11	6	6	11	12	7	7	5	13	8	8	13	8	890	37.3	37.3	
12:00~14:59 ⑤	64	27	32	31	20	28	39	31	18	23	26	21	21	18	16	16	18	16	475	19.9	19.9	
15:00~17:59 ⑥	43	42	38	40	34	33	23	30	29	29	19	25	31	34	25	25	34	25	279	11.7	11.7	41.5
18:00~20:59 ⑦	15	17	19	19	15	16	15	14	14	15	27	20	22	28	23	23	28	23	712	29.8	29.8	
21:00~23:59 ⑧	27	39	32	37	35	52	48	52	57	57	49	66	57	39	65	65	39	65	2,386	100.0	100.0	100.0
小計	182	167	164	164	145	161	154	152	161	156	142	158	156	161	163	163	161	163	2,386	100.0	100.0	2,386

出典：付表1と同じ。

注：付表1と同じ。

6. 最終回視聴後における受講学生の評価

ここまでは、受講学生からの回答を定量的に分析してきた事例を紹介してきたが、ここからは、受講学生の文章による記述回答を踏まえながら、定性的に分析してみたい。それにあたって、まず表8「最終講義視聴後における受講学生の自己評価」を掲示しておく。これは、講義最終回にあたる第14回のミニッツ・ペーパーで質問したものであり、3つの設問（「(A) あなたにとって、「オンデマンド型」のオンライン講義（事前に収録され、必要に応じて視聴できる動画講義）は、科目を問わず、「リアルタイム型」のオンライン講義と比較して受講しやすいものでしたか?」、「(B) 「あなたにとって、この「日本経済史」の動画講義は、他の「オンデマンド型」講義と比較して、受講しやすいものでしたか?」、「(C) 「14回通じて、「日本経済史」講義に対するあなたの取り組んだ姿勢を評価して下さい。」）から成り立っている。いずれの設問とも5段階で評価され、以下の各記述回答の冒頭に付した丸数字は、その評価を表す。それぞれの設問に対する評価ごとの人数とその比率は、表8（A）～（C）に掲げたとおりだが、ここで大事なものは、その比率の高低ではなく、何点の評価を付けた学生がどのような記述回答を書いたかにある。

(1) 「オンデマンド型」講義は「リアルタイム型」講義よりも受講しやすいのか？

1) いつでも・どこでも・何度でも

第1に、「(A) あなたにとって、「オンデマンド型」のオンライン講義（事前に収録され、必要に応じて視聴できる動画講義）は、科目を問わず、「リアルタイム型」のオンライン講義と比較して受講しやすいものでしたか?」という設問に対する回答を検討する。学生の記述回答には意図せずして、同じような、類似した語句・フレーズが飛び交うことがある。この設問（A）においては、「いつでも、

表8 最終講義視聴後における受講学生の自己評価

設問

- (A) あなたにとって、「オンデマンド型」のオンライン講義（事前に収録され、必要に応じて視聴できる動画講義）は、科目を問わず、「リアルタイム型」のオンライン講義と比較して受講しやすいものでしたか？
 (B) あなたにとって、この「日本経済史」の動画講義は、他の「オンデマンド型」講義と比較して、受講しやすいものでしたか？
 (C) 14回通じて、「日本経済史」講義に対するあなたの取り組んだ姿勢を評価して下さい。

(人) (%)

評価	(A)		(B)		(C)	
	人	%	人	%	人	%
5	非常に受講しやすい	87 54.0	非常に受講しやすかった	117 72.7	大変よく頑張っていた	30 18.6
4	受講しやすい	40 24.8	受講しやすかった	30 18.6	よく頑張っていた	92 57.1
3	ふつう	25 15.5	ふつう	13 8.1	ふつう	34 21.1
2	受講しやしくない	7 4.3	受講しやすくなかった	1 0.6	あまり頑張れなかった	5 3.1
1	全然受講しやしくない	2 1.2	全然受講しやすくなかった	0 0.0	全然頑張れなかった	0 0.0
合計		161 100.0		161 100.0		161 100.0

出典：九州大学経済学部前期講義「日本経済史」ミニッツ・ペーパー第14回（8月6日～13日実施）。

注：回答者数は161人。

どこでも、何度でも」という概念が溢れていた。

「いつでも」が象徴する言葉は、「タイミング」である。その一例を挙げてみると、⑤「自分のタイミングで学習できる」(楼さん)、⑤「好きなタイミングで視聴」(ロイヤルストレートフラッシュさん)、⑤「自分のタイミングで受講できる」(まりもろさん)、⑤「自分の好きなタイミング・時間で講義を受けられる」(わおわおさん)、⑤「自分の好きなタイミングで受けることができる」(D4Cさん)という具合である。すなわち、学生にとって時間割は与えられるものではなく、それぞれの聴講時間を自ら予め調節・調整して決めたい気持ちが表れている。朝日新聞と河合塾による「ひらく 日本の大学」緊急調査によれば、オンデマンド型のオンライン授業を「学生が自分の好きなペースで学習でき、復習もしやすい」と評価する大学が多かった³¹⁾。その一方で、③「任意のタイミングで聴講できる分気の緩みが生じやすい」(なんくるないささん)という回答が示すように、タイミングの中にも規律を求める学生の存在も、看過してはならない。

「どこでも」という点では、天候や体調、伊都キャンパスのロケーションを鑑みたうえで、オンライン型講義の特徴を挙げる者が顕著だった。④「雨の日や台風の日などはオンライン講義であるとありがたい」(匿名希望さん)といった天候によって通学が左右されず、自宅で受講できるメリットは、学生から支持されやすい。さらに、伊都キャンパスという立地の特性上、④「実家から1時間以上かかる」ので、⑤「遅刻しない」で済むという通学時間の障壁が撤去された点も、九大生にはきわめて大きかった。これらの意見は、リアルタイム型講義にも該当するが、これに加えて、オンデマンド型講義では、他人と顔を向き合わせる必要がないので、⑤「髪や服装などの準備など登校の手間がない」(さとうさん)し、⑤「リアルタイム講義だと体調が悪いときにも無理して受講しなければならない」(ぴえまるさん)が、④「体調不良などの理由でリアルタイムの受講が難しい時も、あまり気にする必要が無かったから」(太郎さん) オンデマンド型講義を支持する意見も見られた。

「何度でも」に関しては、繰り返し視聴して、疑問点を解消させる積極性が窺えた。⑤「分からなかった部分は何度でも繰り返し視聴できる」(よっしーさん)、⑤「オンデマンドでは聞き逃したら巻き戻しをすれば良いし、内容を忘れてきたら何度も見直せる」(kさん)、⑤「理解を深めることが目的なら、オンデマンド型のオンライン講義のほうが学生の役に立つ」「試験やレポート前に何度でも視聴し直すことができるので、最終的な理解度が深まる」(タイ子さん)といった感想は、その証左である。また、留学生からは、⑤「日本語が不十分なため、何回も聞くことができるようになって大変助かりました」という意見があった。これまで対面式授業しかなかった時であれば、留学生が日本語の講義を履修することに対して、どんなにリスニングの能力が高かったとしても、専門用語が飛び交うことのハンデキャップを抱えていた。しかし、オンデマンド型講義の普及によって何度でも聴講する機会ができるのであれば、専門分野の理解力もさらに深まるに相違ない³²⁾。

31) 『朝日新聞』朝刊、2020年8月24日、19頁。

2) 勤労体験・就職活動との両立

学生にとって、アルバイトや勤労体験は、生活の収入源となり、社会的経験を積むうえでも不可欠な時間である。⑤「私は大学と並行して、ベンチャー企業で正社員をしています。会議や営業の際には日中の時間に小テストを出せないこともあり、オンデマンドの形態でないと難しい点があります」(abcyyyさん)、⑤「平日は仕事があるため夜でも見られた」(トーマスさん)など、働きながら学びたい学生たちのオンデマンド型講義に寄せる意見は、一方で、学生だから昼間は勉強に従事しなければならないという固定観念を払拭し、他方で、かつて隆盛だった夜間学部や第二部の要素を採り入れた授業スタイルを思い起こさせる。

同様に、就職活動を強られる4年次以上の学生にとっても、オンデマンド型授業が開講されたメリットは大きかった。例年であれば、民間企業の採用面接は平日の日中に対面で開催されるおかげで、授業に出席したくてもできない学生が少なくない。そうした就活生が、今年度のオンデマンド講義で、しっかりとミニッツ・ペーパーを提出していたことについては前述したとおりであるが、⑤「就職活動などで実際の授業時間には参加できないこともあります。オンデマンド型ならいつでも受講出来る部分も受講のしやすさにつながりました」(パンさん)、⑤「就活でどうしても出ることができない場合でも講義を受けることができた」(ああああさん)、⑤「就活で時間が取れない時も、動画があれば遅れることはなかった」(みるくプリンさん)、④「就活の予定を調整しやすかった」(とまとととさん)など、総じて好意的な意見が寄せられている。

3) オンデマンド型講義とリアルタイム型講義との比較

オンデマンド型講義と、リアルタイム型講義の長短を比較した感想も、一定数見られた。リアルタイム型のほうが、⑤「授業を受けている最中はそれなりの緊張感を保てるし集中はできる」(タイ子さん)、④「講義によってはリアルタイム型の方が便利なこともある」、③「リアルタイム型も、対面授業のような臨場感と、聞き逃してはならないという適度な緊張感が芽生える点ではよかった」(匿名希望さん)と、それに好意的な意見もあれば、③「リアルタイム型講義は通常講義以上に教員・生徒の両者が気を遣うことになり、負荷が大きい」(なんくるないささん)、③「リアルタイム型の講義のような緊張感はあまりなかった」(へろーさん)など、オンデマンド型のほうが緊張感や気遣いなく受講できる意見も少なくない。

いずれにしても、リアルタイム型講義における最大の問題は、③「Wi-Fiが弱いところでは何度も回線が落ちてしまいます」(半年間リングフィットアドベンチャーの人さん)という感想が象徴するように、物理的にオンラインの接続が切れてしまうというリスクにある。もちろん、そうした学生のために、バックアップとして録画・録音をしておくことが肝要ではあるが、受講学生側からすると、切

32) 2019年10月～2020年3月に国立台湾大学へ交換留学してきた当ゼミ生によると、同大学はコロナ禍以前から留学生向けのオンライン授業を実践していた。また、友人と時間を決めて留学生寮で受講し、視聴中でも一緒に議論したり、わからない部分を教え合ったりできたという。他方で、リアルタイム型講義は時間を指定されているため、受講する使命感が強くなるが、通信環境に大きく左右される。とくに留学生寮のWi-Fi環境が良くなかったため、キャンパス内で聴講することも多かったらしい。

断してしまうことによって、受講へのモチベーションが低下してしまったり、再受講したりする煩わしさが発生する。こうした点からしても、オンデマンド型講義はそのリスクヘッジになっていたと想定される。

さらに付記するならば、④「リアルタイムの講義中に、オンデマンド型の動画資料を見る時間を作り、その後にリアルタイムで解説を付け加えるといった授業形態もあり、これが一番良いのかも知れないと感じた。この講義では、さらにそのリアルタイムでの解説を授業後にMoodle上に掲載し、復習にも使えるようになっていた」(ライス大盛り二杯さん)と、オンライン講義形式を自ら積極的にカスタマイズしていく学生にも恵まれた。もちろん、リアルタイム型講義であろうと、オンデマンド型講義であろうと、③「一長一短であり、単純比較できるものではない」(なんくるないささん)と、どちらの配信形式にも甲乙つけがたいという意見は存在する。その評価は結局、③「教師の話し方で大きく変わります」、③「先生の使いこなし度合いによって、わかりにくい授業もあれば、反対に利用しやすくなった授業もあった」(tmさん)というように、科目適正や教員次第である点も否めない。

とはいえ、オンデマンド型講義は、学生にとって「後回し」になってしまう落とし穴も発生していた。④「つい後回しにしてしまうときもあったので、自分できちんと管理しないといけないのが大変なところでもあり、一方で、スケジュール管理能力を身につけるよい機会になった」(バインミーさん)という感想が物語るように、学生は平時以上に自己管理を問われる生活を強いられていた。④「自分で受けようとしないと受けられない」(ろんさん)、④「いつでも視聴できるが故に後回しにしがちになってしまった」(とまとまとさん)、③「受講すべき授業がたまる恐れがある。毎週の課題がない場合、受講できずに期末試験前で焦る」、「集中力がないときは時間をダラダラかけてしまう」(まさん)、③「毎回ミニッツ・ペーパーがあるような授業だったらオンデマンド型であっても毎週きちんと受講しますが、そうでなかったら怠けてしまいます」(半年間リングフィットアドベンチャーの人さん)など、勉強面でのオンオフの切替は、オンデマンド型講義だと習慣にしづらかったようである。

したがって、これまでのような対面式授業の復活を寄せる声も少なくなかった。④「欲を言えば教室で他の生徒と受けたい」、③「図書館が使えない今、家で勉強する習慣がなく家などの周りに人がいない状況で一切集中することができない自分にとってはオンデマンド型の講義は時間がかかるだけで苦痛でしか無く、早く学校に行行ってリアルタイムの講義を受けたい」という文言は、この設問に対する学生の本音が表れている。

4) 講義内容の質疑応答

その他として、少数ではあったが、講義内容に対する質問が生じた場合、⑤「メールなどで聞くよいうという先生もいらっしゃいますが、授業内容に関して、わざわざメールをして質問するというのは気が引けてしまうのですが、毎回 Google フォームという形で、意見や質問等を載せられると、とても良い」(kさん)という建設的なコメントも見られた。質疑応答は、オンデマンド型講義のウィークポイントの1つである。本講義でも、個別にメールで質問に対して返答したり、ある程度類似した質問が一度に寄せられた際には質疑応答用の YouTube を制作したりしてみたが、質量ともに手間が掛かっ

てしまう問題点を発生させていた。「気兼ねなく質問できる場がなかった」(ITさん)、「質問がその場で返ってこない」(YYさん)、「オンライン形式ということで仕方のない面もあるが、若干一方的な講義になってしまっていたように感じる」という批判は、オンデマンド型講義ゆえの反省点でもある。

(2) 本講義の動画は視聴しやすかったか？

1) 動画のストーリーミングと YouTube の利用

第2に、「(B)「あなたにとって、この「日本経済史」の動画講義は、他の「オンデマンド型」講義と比較して、受講しやすいものでしたか？」という設問に対しては、動画自体に関する回答が多く寄せられた。

インターネットに接続できている環境が常に整っているのであれば、端末のストレージ容量を気にせずに動画を再生できる点で、ストーリーミングのほうが効果を発揮しやすい。他方で、ストーリーミングは、オフライン環境だと再生できず、インターネット環境が悪いと映像や音声が途切れてしまう。幸いにも、九大経済学部生のオンライン授業に必要な通信環境は、オンライン授業の通知前に84.1% (2年生以上の学部生に限定すると87.1%)、オンライン授業開始までに98.3% (同98.7%) 整えられていた³³⁾。

他方で、インターネットがない状態やオフラインの環境で動画再生の効力を発揮するのが、ダウンロード方式である。しかし、その短所として、端末の空き容量が無くなりやすく、かつ完全にダウンロードし終えないと再生できないために、学生にとっては視聴するまでに多大な時間を要してしまう。仮に、「日本経済史」の動画講義をダウンロード方式で受講せざるをえなかった場合、毎回140MBを4本分、計560MBのダウンロード時間とその容量を、学生に求めなければならない。受講学生からの回答として、⑤「データの読み込みに時間を要することが無かった」(太郎さん)、⑤「スライドの資料と解説が一体化していて、自分でページを動かす必要がない」(バインミーさん)、⑤「この授業は動画形式であったため、授業とノートの二つで画面をわければよく、とても受講しやすかった」(しよさん)という文言が集まったのは、その証左だと感じられる。

次に、動画のアップロード先に関する指摘が、多数見られた。YouTubeは学生にとっても、⑤「普段から利用しているので、使いやすい」(akiさん)く、⑤「使い慣れたアプリ」(ステイさん)という安心感があった。⑤「YouTubeにアップロードされるようになってから動画が途中でフリーズすることが一度もなく非常に受講しやすかった」(天草晩柑さん)という意見は、Moodleでの視聴が何度かフリーズして受講していたことを示唆する。これに加えて、YouTubeの利用者からは、⑤「速度の調整がしやすかった」(やさこさん)、⑤「MP3を利用した講義より聞き取りやすく、巻き戻しや速度変更などの操作も使い慣れている分やりやすかった」(いでさん)、⑤「スピードが速かった」(手越のエッセイ2冊購入しましたさん)と、その視聴速度を調節できるメリットを挙げる声が多かった。

講義動画の速度調節については、懸念も出されている。たとえば、東京工業大学は、授業をZoomでのリアルタイム型に統一していた。同大学の水本哲弥理事・副学長は、今回リアルタイム型に絞っ

33)「経済学部・学府のオンライン授業に関する学生アンケート調査 集計結果」、1、5頁。

た理由を、「オンデマンド型では学生が1.5倍速で視聴したり、一部を飛ばしたりしがちだから」と説明するが、他方で、リアルタイム配信と同時に録画する授業では、「学士課程1年生や、授業が英語でわかりにくい大学院生が繰り返し利用している³⁴⁾」。文系と理系の違いはあるかもしれないが、リアルタイム型の配信方法の中にも、オンデマンド授業の要素は含まれている。巻戻しして復習できるという速度調節のメリットは、今回のオンライン授業化で大きく浮上した特長ではないだろうか。

YouTube を利用するメリットは、それらに限ったことではない。YouTube には、自動字幕機能がある。この機能を利用した動画では、字幕を追加することで聴覚障害者や専門的な日本語の聞き取りに不自由な留学生などへ、動画講義の内容をより深く理解してもらえる。オンライン授業において、視覚や聴覚に障害を持つ学生への配慮・支援は、全般的に立ち後れた状態にあり、「パソコンの画面上に文字による説明が表示されなかったり、音声が届き取れなかったりして授業の内容を理解できない学生もいた³⁵⁾」。とくに、聴覚障害者向けのサポートには、これまでより人手が必要になる³⁶⁾。本講義の動画に関しても、試しに YouTube の自動字幕機能をつけてみたところ、その機能は必ずしも正しく表記された字幕を付していたわけではなかった。とはいえ、講義動画を YouTube にアップロードしたことで、そうしたハンディキャッパーたちの手助けがいくらかでもできたのであれば、YouTube 配信でオンデマンド型の授業を開講した意義があったといえる³⁷⁾。

2) 動画への教員の顔出し

配信する側として興味深かったのが、教員の顔出しに関する意見である。本講義の動画では、全てのファイルに教員の音声だけでなく、スライド右下に映像も取り付けた。教員は特設ポディー・ランゲージをするわけでもなく、上半身のみが映し出される状態であったが、学生には教員の顔が見えていたほうが望ましいらしい。たとえば、⑤「先生の顔が見えるのでなんとなく授業を受けるやる気が出たような気がします」、⑤「大画面でスライド、小さな画面で先生が映っているといった構成が見やすかった」(まさん)、⑤「先生の顔が見えていたので真剣に聞こうという気持ちになれた」(びおったさん)、⑤「先生が話しているのを見られるのはモチベーション的に良かった」(森田か千里さん)、⑤「喋っている先生の姿が映されている事により「授業」を受けている感が強かった」(やすしさん)、⑤「全ての動画に教授の様子が映し出されていたことで、聞いている間に退屈に感じることは全くなかった」という感想から伺えるように、教員の顔が見えることは、学生の受講意欲を高め、真剣に聴講させ、安心感を与えていたようである。聴き手が話し手の説明を理解するだけでなく、信頼するために

34) 『日刊工業新聞』、2020年8月13日 (<https://newswitch.jp/p/23428>)。

35) 『読売新聞』朝刊、2020年7月3日、19頁。

36) 『読売新聞』朝刊、京都版、2020年6月26日、25頁。

37) 2016(平成28)年4月から、障害者差別解消法の施行により、障害者への「合理的な配慮」が求められるようになり、九州大学もキャンパスライフ・健康支援センターのインクルージョン支援推進室を中心にその支援に対応している。九州大学 Web サイト「障害者支援について」(<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/handicapped-support/>)。そこで経済学研究院は、「合理的な配慮」に対する理解を一層共有するために、2020年10月28日「障害学生への合理的配慮とバリアフリーデザイン」と題するFD研修会をオンラインで開催した。具体的には、同室の田中真理教授、横田晋務准教授、羽野暁特任助教から報告を拝聴し、大学内や授業内における障害学生への合理的配慮、バリアフリー、ユニバーサルデザインに関する見識を深めた。

は、目と目で通じ合うアイ・コンタクトをとれる仲になることが、オンライン授業であろうと、対面式授業であろうと、大切であろう³⁸⁾。

3) 課題提出の方法・期限

課題提出の方法や期限に対する意見も、少なからず集められている。教員側からすれば、講義中のルーティンな課題を出題した際には、できるだけ早く回収させたいが、学生側からすると、オンライン授業では、これまでの対面式授業時のように手際よく書いて提出できないようである。各回のミニッツ・ペーパー提出は、動画講義の公開から1週間後と定めていたが、⑤「出席提出まで一週間の猶予がある」、⑤「1週間猶予があると曜日を自由に決められて就活やバイトの裁量が広がる」という感想からもわかるように、その期間は学生の生活リズムにとって適切だったようである。

また、毎回課題が存在することも、受講学生の刺激になっていたらしい。⑤「毎回ミニッツ・ペーパーの提出があったので、講義を少なくとも1週間以内に受講できていた」、⑤「授業をきちんと受ける自律的な意味」、⑤「提出期限があったので、絶対にこの日までに受講する！目標となっていて、助かりました」（さきさん）という感想からも伺えるように、毎回決められた締切のある課題提出が、オンデマンド型講義の視聴を溜めさせない要因・動機として機能していた。なお、その分量について、250字以上の感想・批評2題というのは、一方で、⑤「一週間以内に授業をYouTubeで視聴→Googleフォームで授業に関する質問感想（適度な分量）を提出という毎週やるべきことが明確」（5Gさん）と評価されたが、他方で、④「毎回の合計500字の課題が少しだけ大変」という批判も存在していた。

(3) 本講義に対する学生自身の姿勢

1) 継続性と達成感

第3に、「(C)「14回通じて、「日本経済史」講義に対するあなたの取り組んだ姿勢を評価して下さい。」という設問には、受講学生から次のような自己評価が下されている。

最も多く見られた記述内容は「毎回視聴する継続性」についてであり、その大半は表8 (C)においても5または4の評価を付けていた。⑤「自分でも驚くほど、木曜当日のミニッツ・ペーパー提出が続けられた」（よっしーさん）、⑤「一度もサボらず、毎講義真剣に取り組んだ」（毛利小五郎さん）、⑤「その日のうちにミニッツ・ペーパーを出すことを心がけ、最後までやり切った」（けいさん）、⑤「すべてのコメントペーパーを出せた」（炒飯カツカレーさん）、⑤「忙しい中でも授業をしっかりと聞いて提出物を忘れずに行った」（しょさん）、⑤「全14回、分からない点を残さない！と決めていました」（さきさん）、⑤「全ての回において自分なりに思考を深め、疑問点などをミニッツ・ペーパーで整理することができた」、⑤「一回も欠かさず14回ミニッツ・ペーパーを書いた」（さとうさん）、⑤

38) 他方で、リアルタイム型講義のうち、大人数授業における学生側の「顔出し」については、彼ら彼女たちからも慎重な意見が出されている。リアルタイム型講義は、対面式講義と異なって、不特定多数に、自宅の部屋の様子や出席者の顔を正面から見られたり、顔と氏名が一致したりするなど、プライバシーを保護し難い。「経済学部・学府のオンライン授業に関する学生アンケート調査 集計結果」、2、11頁。

「毎回しっかり受講して、ミニッツ・ペーパーの提出をした」(楼さん)、⑤「毎週木曜日に動画を観てミニッツ・ペーパーに取り組みました」、④「毎回のミニッツ・ペーパーで授業に関連する内容 + オリジナリティーのある回答を出せるようにはいつも心掛けておりました」(Tanjiro さん)、④「怠け者な私であるが、一度も欠かすことなく授業動画を視聴しミニッツ・ペーパーを提出した」(ランバ・ラルさん)といった感想からは、例年どおりの受講意欲を維持させつつ、その課題を克服できたという達成感が聞こえてくる。とりわけ、④「毎週2回ずつ見た」(あああさん)という感想に対しては、むしろ貴重な学生生活の3時間を、毎週この動画講義に費やさせてしまった申し訳なさを痛感せざるを得ない。

そうした受講学生の達成感の1つに、講義ノートの作成が挙げられる。近年教育のICT化が進捗するにつれて、講義スライドや授業資料を電子ファイル形式で配布しやすくなったものの、学生側からすれば詳細な教材を簡単に無償で入手できてしまうため、授業情報を吸収する意欲に欠如してしまう懸念が持たれる。だが、受講学生が豊富な教材に囲まれながらも、講義内容を綿密に把握するために、自らの講義ノートを作成し、自らの思考やアイデアを表出することは、オンライン授業であろうと、対面式授業であろうと、講義を学ぶ基本である点には変わらない。⑤「メモを取りながら聞いていた」(炒飯カツカレーさん)、⑤「講義動画を見ながらしっかりとノートを取り、本来の講義時間以上に学習を行えた」(ジョン・ドウさん)、④「毎回自分なりにノートにまとめながら取り組むことができた」(YY さん)という感想は、そうした受講学生自身の達成感の表れであると捉えている。

こうした継続性の達成感、就職活動の進捗とともにあったことも、受講学生の回答で指摘されている。⑤「就職活動真っ最中でも、この授業のミニッツ・ペーパーだけは提出しないことはなかった」(かいせいさん)、⑤「就職活動と並行してほぼ全ての課題を提出した」、④「就職活動との両立をしながらなんとかミニッツ・ペーパーもぎりぎりだが提出できた」(s.s. さん)という満足感を伺えるし、④「就職活動と被ってしまう部分があり最初のほうの授業に積極的に参加することができなかった」、④「公務員試験もあり何度かミニッツ・ペーパーを出せないことがあった」(Noname さん)、②「就職活動を言い訳にミニッツ・ペーパーを複数回提出できなかった」、④「就活を始め、想像以上に3年夏が忙しいことをしり、毎週の講義の課題をするのに手がいっぱいになっていた」(ていたむさん)という自省の念も寄せられている。③「就職活動がうまくいってなかったため、受けられることが少なくなっていった」という感想からは、コロナ禍による就職活動の厳しさが伝わってきた³⁹⁾。

2) 集中力の欠如

他方で、この講義に取り組んだ姿勢として、「継続できなかった」、「全力を出し切れない」、「集中できない」といった評価も寄せられた。そこには、③「何回かミニッツ・ペーパーに取り組むのを忘れていた」、③「日々の忙しさから、ミニッツ・ペーパーを出し損ねた日が何度かあった」、④「周回遅

39) 文部科学省・厚生労働省「令和2年度大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職内定状況調査」によると、2020年10月1日現在、大学生の就職内定率は69.8%で、前年度同期調査比7.0%ポイント減少だった (https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000184815_00008.html)。

れになってしまったし、一度提出したつもりで提出できなかった回もあった」、④「提出忘れが何度かあったため」と、自らの学習態度をきちんと律するものもあれば、④「100%の本気を出して取り組めたかどうかという点に関しては、恐らくそうではない」(Tanjiro さん)、④「オンラインのため集中しにくい時はありました」(びおったさん)、③「オンラインの画面を90分見続けるのはすごく集中力を必要とすることで大変でした」、③「週によってやる気のばらつきがかなりでてしまった」など、オンライン授業が数か月も延々と続く現状を嘆く声も聞こえてくる。

講義視聴に集中できない要因としては、ネットワーク環境にも問題があった。「回線の状況によっては、稀に動画視聴中に止まってしまう」(よっしーさん)というように、学生側の受信状況が常時安定を保持しているとは限らない。さらに、受信環境が良好であっても、③「動画視聴中に集中が切れているときもありました」(エコトンさん)と、動画講義が延々と続くマンネリズムに陥ってしまうケースもあり得る。「パソコンの調子が悪いときはPCを借りたりしなければならなかったり、対面授業よりも先生との距離を感じたりといった点が不便」(たいがさん)という意見は、教員側からしても距離感を縮めたいと願うものの、それが叶わないやるせなさが文面から滲み出されている。外出しづらいからこそ、家で読書をするのも時間の使い方として有効な選択肢だったが、実際には、④「何か一冊でも本を読みたかったが、それが出来なかった」(パンさん)のは、実に口惜しい。学生も、教員も、初めてオンライン授業で臨むことに対して、あまりにも忙殺された期間だった。

7. 今後の課題と展望

以上のとおり、新型コロナウイルス感染症対策下において、高年次のわずか1科目の事例ながら、オンライン授業に対する成果と課題を表してみた。少なくともコロナ禍における学生の受講実態とメッセージは、ポスト・コロナの時代へ届けられたのではないだろうか。

オンデマンド講義を実践してみたことで初めて知らされた問題は、あまた湧き上がる。とはいうものの、こうした非常事態に対して教員・学生ともに一定の満足度を達成できたのは、冒頭でも述べたように、オンライン化特設チームが経済学研究院という部局内で迅速に組織化され、遠隔授業の提供に向けて予測できる限りの制度設計を成し得ておいたからである。この基盤整備がなければ、個々の教員は思い思いのツールやコンテンツを使った授業を計画してしまい、学生たちは履修科目分のオンライン受講方法を強いられていた⁴⁰⁾。

夏学期・前期の授業が終了した8月下旬から9月上旬、文部科学省は全国の大学・高等専門学校など1,060校を対象に、後期授業の実施方針に関する調査を実施したところ、全面对面が約2割、対面と遠隔の併用が約8割という回答結果を得た⁴¹⁾。これを受けて、萩生田光一文部科学相は10月16日、機

40) 受講学生からも、「前例のない事態の中非常によい授業を提供していただいております、他学よりは恵まれていると強く感じます」(ジョン・ドゥさん)、「九大経済はとても迅速な形で授業をオンラインで提供していただきとても感謝しています。そのことを他の大学の友人に話したら羨ましがられました」(マルクス・アウレリウス・アントニヌスさん)というコメントが寄せられている。

械的・量的に対面授業を増やせと求めているわけでないと言及しながらも、対面授業の実施割合が半分未満になる予定と回答した377校を対象として再調査を行うと発表し⁴²⁾、12月23日にその結果を公表した⁴³⁾。そうした文科省の対応には、世論や大学側から反発の声が出された⁴⁴⁾。

前述した「ひらく 日本の大学」緊急調査によると、「実験・実習・実技系科目への対応」、「学生の通信環境・ICT（情報通信技術）スキル」や「学生の学ぶ意欲・メンタルケア」には、多くの大学が課題として採りあげたものの、「オンライン授業をきっかけに授業の改善につながった」と回答した大学は半数を超えた⁴⁵⁾。この調査は2020年6～7月に実施されたため、全面的なオンライン授業には批判が高まるとともに、まだ後期授業でのコロナ禍の状況に対して楽観している部分が反映されていた。「質を上げるためにはシステムの改修が必要だが、いずれは元の対面授業中心に戻るとみているので、本格的な投資はしにくい大学が多いのではないか⁴⁶⁾」と語る教員の声も載せられているが、結局、その「いずれ」がいつになるのかは全く不透明な状態に陥っている。したがって、「学びの準備的な部分はオンライン授業とし、重要な部分を対面授業にするといった教育⁴⁷⁾」という昭和大学の意見が、現時点では「いずれ」を見据えた方向性であることに異論なからう。

問題は、「いずれ」後の大学教育である。その時間が経つにつれ、初等・中等教育でオンライン授業の薫陶を受けてきた児童・生徒が、大学へ入学してくる。そうした中で、本当に「元の対面授業中心」に戻せるのだろうか。コロナ禍のオンライン授業が進むにつれて、近ごろ「反転学習」、「反転授業」という概念が急速に浸透しつつある。「反転学習」とは、教員の解説を聞かせる「直接指導を集団学習の場から独習の場へと移し、その結果として集団学習の場を、動的で双方向型の学習環境へ変容させる教育アプローチ⁴⁸⁾」と定義されている。

九州大学と同様に、LMSによるオンデマンド型授業に力を入れてきた早稲田大学は、これまでも「反転授業」を推奨してきた。これまでは、そこまで手がける教員はそう多くなかったが、この新型コロナウイルス感染症対策で大きく進んだという⁴⁹⁾。また、同僚である松永正樹准教授も、「複数の手法を組み合わせたマルチモーダル（Multi-modal）な仕組み」の授業を展開し、多様な認知・学習スタイルを持つ受講生の誰もが学べる場の創出を心がけていると述べる⁵⁰⁾。考えてみれば、本講義で今回採

41) 文部科学省「大学等における後期授業の実施方針等の調査」、1頁 (https://www.mext.go.jp/content/20200915_mxt_kouhou01-000004520_1.pdf)。

42) 文部科学省 Web サイト「萩生田光一文部科学大臣記者会見録（令和2年10月16日）」(https://www.mext.go.jp/b_menu/daijin/detail/mext_00101.html)。

43) この調査で、九州大学は、対面授業の比率を3割程度、「7月下旬から8月上旬に本学で発生したクラスター（集団感染）により、対面授業を積極的に導入することを判断できない状況」と回答している。文部科学省「大学等における後期等の授業の実施状況に関する調査」(https://www.mext.go.jp/content/20201223-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf)、76頁。

44) 『朝日新聞』朝刊、2020年10月24日、7面；『朝日新聞』朝刊、2020年11月20日、37頁。他方、大学のオンライン教育を「全体としてはマイナス」と答えたのは、京都大学の山極壽一総長である。『日本経済新聞』電子版、2020年9月21日2時00分配信。

45) 『朝日新聞』朝刊、2020年8月24日、19頁。

46) 『朝日新聞』朝刊、2020年8月5日、3頁。

47) 『朝日新聞』朝刊、2020年8月24日、19頁。

48) バーグマン、サムズ [2015]、33頁。

49) 『日刊工業新聞』、2020年8月13日。

りあげた「質疑応答用 YouTube」も、「反転授業」の一形態をさらにオンラインで実践してみたものと位置づけられるかもしれない。

「反転」させる学習方法は、学部や学科、科目によって多種多様であろうが、教員と学生が対面する授業時間を最大限に活用する点では、共通している⁵¹⁾。そういう意味で、2020年度のオンライン授業は、けっして感染症対策下の一時的なリスク・マネジメントに留まるのではなく、教員が教室で学生に一方的な講義を聴かせるだけの授業から脱して、学習のファシリテーター⁵²⁾ となるために開かれた突破口として位置づけられていくべきであろう。

参考文献一覧

- Brandl, K. [2005], 'ARE YOU READY TO "MOODLE"?', "Language Learning & Technology", Vol.9, No.2
- 九州大学経済学部 [2020] 『学生便覧』 令和2年度
- 九州大学百年史編集委員会 [2014] 『九州大学百年史』 第4巻部局史編I (第7編経済学府・経済学部・経済学研究院)、九州大学
- 品川恭子 [2008] 「Moodle を利用した協働学習コミュニティ」、『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』 第18号
- ジョナサン・バーグマン、アロン・サムズ (東京大学大学院情報学環 反転学習社会連携講座監修、上原裕美子訳) [2015] 『反転学習—生徒の主体的参加への入り口』、オデッセイコミュニケーションズ
- 藤村直美・緒方広明 [2017] 「九州大学における学生 PC 必携化 (BYOD) の実現と成果について」、『情報処理学会研究報告』、2017-CLE-21巻7号
- 藤村直美・多川孝央・眞崎義憲・木實新一 [2020] 「九州大学における教育データの利活用とその他の枠組み」、『大学情報システム環境研究』 23号

[九州大学大学院経済学研究院 准教授]

50) 松永正樹「オンライン授業は多様な受講生にメリットをもたらす」、『EdTechzine』、2020年11月16日配信 (<https://edtechzine.jp/article/detail/4697>)。

51) 前述した国立台湾大学への交換留学生によると、同大学のいくつかの講義では、「反転授業」が既にコロナ禍以前から採用されていたが、学生にとっては予習が著しく増加するため、非常に大変だったとのことである。

52) バークマン、サムズ [2015]、36頁。

付表1 回数別日特別に見たミニッツ・ペーパーと期末試験の送信受講学生数

(人)

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	期末 試験	時間帯 別計	日別計
講義日・出題日	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30	8/6	8/6		
提出締切日	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30	8/6	8/13	8/13		
7日前 ⑥	1																1
5日前 ②	1																1
(土曜日) ③	1																1
④	1																1
⑤	1																1
⑥	1	1															2
⑦	2																2
⑧	1																1
4日前 ①	1																1
(日曜日) ⑥	1																1
⑦		1															1
⑧		1															1
3日前 ②		1															1
(月曜日) ④	1	1															2
⑤	1																1
⑥	1																1
⑦	1																1
⑧	1																1
2日前 ②		1															1
(火曜日) ⑤	2																2
⑥	1																1
⑦	1																1
1日前 ①		1	1														2
(水曜日) ②		1															1
④		2		1													3
⑤	1		3	3	1												8
⑥	1	4	1		3												9
⑦	1		1		2												4
⑧	3		6			1											10
授業当日 ①	1			4		1											6
(木曜日) ②	1		1														2
④	7	3	2	3	2	3				1				2			23
【授業時間】 ⑤	44	16	11	11	10	10	10	13	6	8	3	6	5	5			158
⑥	22	23	14	12	8	10	7	12	12	7	8	5	6	6			152
⑦	4	3	8	6	2	4	4	3	1	5	5	4	6	5			60
⑧	4	5	3	2	2	8	6	2	4	3	2	7	2	3			53
1日後 ①	3	1	1	2	3	1	2					2		1			16
(金曜日) ②	1		2	1	2	1		2	1				2				12
③		1	1	2	1	2											7
④		1		3	4		2	1	1	2	2	1	1	1			19
⑤	2	2	6	3	1	3	2	1	1	2	2	2	1	1			28
⑥	2		6	2	3	3	4	2	3	3	1	2	3	4			38
⑦		3			1	1	1		2	1	2	1	1	3	1		17
⑧	1	2			2	1		1		1	2	1	2	7			20
2日後 ①		1					2	1	2			1	2	3			12
(土曜日) ②				1			1		1	1							4
③	2					1			1		1			1			6
④	1	1	3	1							1		3	2	1		12
⑤				1	2		3	2	2	2			3	3	4		19
⑥	1	2	3	4			1	1			3		2	4			21
⑦			2	1	2	1		2	1	1			1	1			12
⑧		1		1		1		2	1	1			3	1			11

新型コロナウイルス感染症対策下におけるオンライン授業の成果と課題

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	期末 試験	時間帯 別計	日別計	
講義日・出題日	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30	8/6	8/6			
提出締切日	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30	8/6	8/13	8/13			
3日後 (日曜日)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	1 1 2 3 1 4	 2 2	1 2 2 2	 2 1 1 1 2	 1 1 2 2 1	4 1 2 1 3	 2 2 3	1 2 1 1 1	2 1 1 1	1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	3 1 2 1 5 2 3	1 1 1 1 1 2	1 1 2 4 3 4	15 2 4 8 11 22 18 23	103
4日後 (月曜日)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	 1 3 2 1 1	3 1 1 1 3 1 1	1 2 4 2 2	 1 2 1 4 2 1	1 1 1 2 2 1 1	 1 1 2 2 1 1	 1 2 1 1	1 1 1 1 2 1	 1 1 3 1 2	2 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 2	1 1 2 1 2 3 3	1 1 2 1 3 5 4	1 1 1 2 2 3 4	11 4 9 14 19 25 23 21	126	
5日後 (火曜日)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	 1 3 2	1 1 1 4 1 2	3 2 1 3 1 1	1 3 2 2 2 1	3 3 2 2 4 4	1 1 1 2 1 3	2 1 1 2 1 1	2 2 1 1 1	3 1 1 2 3 2	2 1 1 1 1 2	3 1 4 1 1	2 1 2 2 3	2 1 1 3 5	4 1 1 3 5	4 2 5 24 22 25	30 2 5 9 20 24 22 25	137
6日後 (水曜日)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	 2 4 6 3 9	 1 3 1 2 10	2 1 2 4 6 3 6	4 1 1 4 7 1 5	3 1 1 4 4 5 9	1 1 2 3 4 1 5	2 3 1 3 5 8 8	1 3 2 5 3 1 8	1 1 4 5 4 4 5	1 1 1 1 2 3 6	1 1 4 5 2 7 3	2 1 2 5 5 6 3	1 1 3 2 3 5 3	2 1 3 5 5	2 1 3 5 5	21 8 11 17 44 58 42 87	288
7日後 (木曜日)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	4 1 5	5 2 10 3	8 1 10 9 1 8 3 12	6 1 1 4 6 7 6 24	6 1 1 6 5 7 5 27	4 1 1 6 7 15 8 30	6 2 3 7 8 8 6 37	13 3 1 7 5 8 5 42	2 1 1 5 4 3 10 44	3 1 3 3 11 5 10 37	5 2 1 3 7 8 9 52	2 1 3 6 11 8 6 48	4 4 4 3 6 8 7 17	5 3 4 9 14 10 48	77 20 14 61 103 119 75 459	928	
8日後 (金曜日)	① ⑤	 1	 3	1 3	1 2	2 2	2 2	3 1	6 1	2 2	1 4	4 1	1 4	4 1	4 4	30 1	31	
11日後	⑥							1								1	1	
15日後	⑦			1												1	1	
小計	182	167	164	164	145	161	154	152	161	156	142	158	156	161	163	2,386	2,386	

出典：九州大学経済学部前期講義「日本経済史」ミニッツ・ペーパー各回。

注：時間帯の区分は、以下のとおり。①0：00～2：59、②3：00～5：59、③6：00～8：59、④9：00～11：59、⑤12：00～14：59、⑥15：00～17：59、⑦18：00～20：59、⑧21：00～23：59。この時間とは、受講学生が各回ミニッツ・ペーパーの Google フォームを送信した時間を表し、各回回答のスプレッドシートに「タイムスタンプ」として記録される。